

第4回セミナー

さくらスクール

2月27日(日)にベルウィン小諸にて第4回さくらスクールを開催しました。

今回は第3回までシリーズで行ってきた、老齢動物の病気や管理についての完結編を獣医師1名、看護師1名から、また以前より要望の多かった猫に関するお話を、獣医師1名から発表させていただきました。

このセミナーは、休憩時間や質問コーナーを利用して「日頃聞けないちょっとしたこと。」を気さくに聞いてもらっています。いつもの病院とは違った雰囲気の中でいつもは聞けないこともついつい…。という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私達にとってもオーナー様が肩の力を抜いて、動物達の近況や日頃の疑問についてお話し頂けることを、とてもうれしく思っています。

次回のテーマは未定ですが、**8月28日(日)**に開催予定です。

皆様のアンケートを参考にしながらテーマを決定していきますので、楽しみにして下さい！事前予約も可能です☆

〈セミナーの風景〉



話し手も真剣です！(上)

お土産もありますよ♪(下)



大好評、院長への質問コーナー!!
(左)

皆様のご参加を、スタッフ一同お待ちしております☆

さくら通信

《号外》

平成23年 4月発行

発行者

さくら動物病院
新聞編集委員
山浦 増山

お知らせコーナー

携帯サイトでもさくら動物病院にアクセスしていただけるようになりました!!! 詳しくは……



<http://www.sakura-komoro.jp/>

5月の休診日

3.0.17.22.24.31

午後休診日

1.3.4.5.8.12.15.19.

26.29

院長不在日

1.11.13.14(AM).

15.16.21.25.29

ホームページ

<http://www.sakura-komoro.jp>

メール会員募集中!

メルマガ随時配信中!

高齢期の疾病 ～骨・関節疾患～

獣医師 増山

皆さんのお家のワンちゃん・ネコちゃんの平均寿命は、共に **14 歳前後**にまで大きく伸びています。7歳から高齢期を迎える彼らにとって、それはそのまま、寿命の半分以上を高齢期として過ごすということを意味しています。では、高齢期を迎えるワンちゃん、ネコちゃんについて一体何に気をつけたらいいのでしょうか？

共通して言えることは、以下の3点です。

一．動物の様子をよく観察する！

二．現状を知る！

三．病気とのつきあい方を知る！



まず、しっかり観察してください。いつもと比べると「**何かおかしい**」と感じることはないか、それが病気の発見につながっていきます。

次に、具体的な状況を知るために、健康診断を受けることをお勧めします。それによって、病気を知ることができ、さらに病気とのつきあい方もわかってくるというものです。大切なのは、「**現状**」を知ることです。そして、病気が治るものであれば治療をがんばる！治らないものであれば、つきあっていく方法をみつけていくといった考え方が大切です。それは、「**生活の質**」を維持するという考え方です。

さて、高齢期によくみられる骨・関節疾患ですが、次の3つがあげられます。

①変形性脊椎症

②変形性関節症

③椎間板ヘルニア

(病気の詳細については、スタッフにお尋ねください)



これらの病気は、動きたがらない、足をかばうようにして歩く、触られるのを極端に嫌がる、といった症状がみられることが多いです。怪しいと思ったら、**健康診断**を受けましょう。骨や関節の異常の他に、内臓の病気などが関わっていないかを検査する必要があるからです。

そして、**他に病気がないことが確認されたら**、治療の方向性を決めていきます。
例えば・・・

- ①、② → 緩和ケア（体重や運動の制限により、痛みを和らげる。）
- ③ → 手術（完治が見込めます。）

治療の方向性を決めるためには、その子の体の現状を知ることが第一です。定期的な健康診断により、現状の把握を心がけましょう！

排泄の介護

動物看護師 荒木

高齢になってくると自力での排泄が難しくなることがあります。
このような場合、家族の手助けが必要になります。



【①自力で歩行ができる場合】

- ◆男の子→ 排尿時は股の間から手を入れて後ろ足の付け根を内側から支えます。(上)
- ◆女の子→ 排尿時は、足の付け根に近い所を支えます。(右)



【②おもらしをする場合】

このような場合には、オムツを使用すると便利です。
オムツをつけるとき、腹部・太ももはぴったりとお尻はゆとりを持たせてとめます。
※オムツをつける時は、こまめに確認し排泄していたらすぐに交換しましょう。

【③寝たきりになった場合（自力で排尿出来る場合）】

このような場合にはペットシーツを使用すると便利です。

- ◆男の子はお腹寄りに敷きます。
- ◆女の子はお尻寄りに敷きます。



また、高齢になると飲水量・摂取量・胃腸運動(蠕動運動)の低下、肛門括約筋の衰えなどにより「便秘」が起こりやすくなります。飲水量の確保・適度な運動・規則正しい食生活などに気をつけることで便秘の改善・防止ができます。

詳しくはHPにてご紹介させて頂きましたのでご覧ください。

猫のあれこれ ～皆様から頂いた質問に答えます！～ 獣医師 山浦

新たな試みとして、皆さんから事前にアンケートでいただいた質問にお答えするコーナーです。

① 猫の爪切りの方法と頻度

- ・爪切りの目安…爪の先の白い部分が長くなってきたら切ってあげましょう。



「どこまで切ったらいいの？」

「血が出てきたらどうしよう？」

「何を使って切ったらいいの？」

→ 一度ご相談ください。一緒に練習しましょう☆



② 誤食しているかの見分け方

誤食…動物が食べてはいけないものを誤って食べてしまうこと。

<誤食予防三原則>

- 1) 置かない
- 2) 近づけさせない
- 3) こまめに掃除

誤食は日々の心がけで最小限に抑えることができます!

※ ただし!!

「えっ、こんなもので!？」という意外なもので動物が中毒を起こすことがあります。

いつもと違うものを食べたかもしれないと気づいたら、すぐに動物病院までご相談を!

第4回さくらスクールアンケート集計結果！

今回セミナーに参加していただいた方の内、49名にご意見・ご感想を頂きましたので集計結果とともにお知らせします。

- ☆ 今回のセミナーの内容について
(回答数 49人)
- 大変良かった・・・29人 (59%)
 - 良かった・・・20人 (41%)
 - まあまあ・・・0人
 - 悪い・・・0人



📄 大変良かったと回答していただいた方の理由(抜粋)

- ✓ 動物だけでなく、自分たちにも関係してくる内容なので良かった
- ✓ 普段見ることができない検査の様子を見ることが出来て良かった
- ✓ 誤食するとどうなるかがわかって良かった
- ✓ 心構えができた
- ✓ 身近な内容で、良かった
- ✓ 術後の動画が感動的だった
- ✓ 勉強になった、参考になった
- ✓ わかりやすかった

📄 良かったと回答していただいた方の理由(抜粋)

- ✓ 動物でも人間でも、病気や介護は同じなんだと思った
- ✓ 簡潔明瞭
- ✓ 説明が丁寧だった
- ✓ もう少し話が深くてもよかった

📄 今後開催してほしいセミナーのテーマはありますか？・・・ある：26人

- ✓ 動物の睡眠時間と生活サイクルについて
- ✓ ドッグフード、キャットフード以外の食事
- ✓ 目や耳の病気について
- ✓ 子犬、子猫特有の病気について、しつけ方
- ✓ 幼犬の社会化について
- ✓ 多頭飼いで注意点
- ✓ 認知症について
- ✓ ペットロスについて

📄 その他 ご意見

- ✓ 院長の質問コーナーを長くしてほしい
- ✓ 通院が多くなるほど、動物と家族に慣れてしまい手を抜いていないか
- ✓ 休憩時間が長い
- ✓ 動物との生活で何を大切にするか、考えるよい機会になった

以上になります。

アンケートにご協力頂いた方、貴重なご意見ありがとうございました。
次回以降のさくらスクールや、日々の診療に生かしていければと思います。

